應答をして見る積りである。

二

即ち私は先づ答へる。社會主義の世の中になつてナマケる者があつたらそれは其人の勝手として放つて置けばよい。若し其人が『遊んでゐて食ひたい』と云ひだしたら『働かない者には食せない』と云つて拗ねつければよい。社會主義の世の中は働く者の共同生活である。どうしても働くのは厭、是非とも遊んでゐたいと云ふなら、そんな人は仲間はづれとして勝手に餓死させるより外はない。然し餓死しても働くのは厭だと云ふ程の人が滅多にある筈のものでないから、つまりこんな疑ひの起るべき筈はないのである。

所が其の起るべき筈のない疑ひが多くの人の頭に先づ一番に起つて來るのだから、そこに又何か理由が無くてはならない。其の理由は解うであると思ふ。

[illegible]

いても働かないでも同じわけであるから、自然に誰も遊んでゐて食はうといふ氣になる。又働くにしても成るべく少く働かうといふ氣になる。つまり働きに對する奬勵が無いから皆がナマケる事になる筈だと云ふのであらう。

さう云はれるとチョッと尤もに聞えないでもない。然しそれは『富の共有』といふ事の考へ方が間違つてゐる。我々が共有を主張するのは、生産の原料とか、機械とか、工場とか、土地とかの事であつて、それらの共有物に依つて出來上つた生産品も勿論共有ではあるが、それは相當の豫備、若しくは貯蓄を引去つた後、社會の各員に分配するので、既に分配された消耗品は各自の私有で無ければならない。又その分配方法については、色々に推測され想像されるが、少くとも當分の間は、勞働の種類と分量と出來榮とに依つて、分配にも相當の差等を付けなくてはなるまい。只、今日ですら最低賃金の規定がある位だから、其時になれば最低の分配でも相當樂に衣食住が出來る程度のものであるべき筈だと思ふ。